

### 3. 河川・水路

河川・水路の整備の特徴的な点は、水の流れとそれに伴う流水の作用という自然現象を対象とした設計行為であるということである。また、河川景観の特徴は、流軸景、対岸景、水上景といった、水の流れを有する河川ならではの景観が得られることにある。

河川の景観設計にあたっては、これらの眺めに、周辺の高い地形から河川を見下ろす俯瞰景を加えた4つの眺めのタイプに配慮することが重要となる。

ここでは、このような河川・水路ならではの特徴を踏まえた「川らしさの創出」というもっとも基本的な観点を加え、景観設計上の留意事項を示す。

#### [川らしさの創出]

○河川の整備にあたっては、治水、生態系、利用、景観等、単一の機能のみを追求した整備は行わず、利用上の快適性や生態学的合理性、工作物の河川工学的合理性等の求められる多様な機能を総合的に踏まえた設計を行う。

→流下能力のみを考慮した左右対称の横断面形状は、可能な限り用いない。

→高水敷や低水護岸等において、本来の河川の姿に不相応な急激な地形や構造の変化はつukらない。

○無理な屈曲や長区間連続する直線河道は、河川の本来の姿から乖離しているため、極力用いないこととする。

○低水路、低水護岸、高水敷、堤防等は、各部位ごとに形態を検討するのではなく、水際から始まる一連の空間として捉え、河川風景全体をつくりあげる観点から設計を行う。

○自然性を高めるためにコンクリート製の護岸に覆土・緑化を施す場合には、水際から高水敷、堤防に至るまでを一連の空間として捉え、連続的なレベル変化をつくり出すとともに適度な起伏を与え、自然的な印象を高める。

○高水敷におけるせせらぎ水路等の人工的な引き込み水路は、間近に自然の流れを有する河川空間の中にあつて不自然で違和感を感じさせる場合があることから、できる限り設置しない。

○広い高水敷を有する場合、施設過多な整備は行わない。また、野球場、サッカー場等の単目的なスポーツ施設は、本来の河川の姿としては不相応な存在であるため、河川敷内にできる限り持ち込まない。

#### [デザイン基調の統一]

○水門や樋門・樋管等の単体施設が、短い区間に連続的に設置される場合は、同一河川に設置される施設群として捉え、施設相互のデザイン的な関連性が感じられるように、デザインの基調を統一する。

### [周辺景観との調和]

○一様な面として現れる護岸は、単調で画一的な印象を与えやすいことから、護岸の素材や大きさに配慮する。

→自然石等を用い、面としての印象を抑える。

→適所に階段工を設ける等、同一形状の護岸が連続することを防ぐ。

→護岸高が大きい場合、小段を設けることで、護岸の見えの高さを分割し高さ感を抑えるとともに、水面との比高を小さく見せる。

○コンクリートを用いた護岸を施行する場合は、植生を用いたりコンクリート面の輝度を下げる等の工夫をし、コンクリート面が周辺景観から浮き立たないようにする。

→護岸肩部に植栽を施すことで、天端の印象を和らげる。

→粗面仕上げのブロックを用いる等によりコンクリート面の輝度を下げ、コンクリート護岸が周辺景観の中で浮き上がって見えないようにする。

→植生が復元しやすい多孔質の材料、工法を用いる。

→覆土を行い、コンクリートを覆い隠す。

○自然性の高い環境を有する地域を流れる小規模の農業用開水路や、まちなかを流れる用水路等については、土羽や石積等の護岸形式を採用し、周辺景観と調和させる。

→小規模の農業用開水路の場合は、極力コンクリート製品は用いず、可能な限り土羽や石積みとする。また、護岸肩部に盛土・緑化を行う。

→集落内を流れる用水路の場合は、コンクリート護岸等は人工的で無機質な印象を与えやすいため、石積み等の自然素材を用いる等、周囲のまちなみを考慮した素材の選定を行い、人々の生活空間との調和を図る。

○水門、樋門・樋管等の単体施設は、極力ボリュームを抑え、シンプルな形態、低明度・低彩度の落ち着いた色彩を基本とし、華美な意匠を施さない。

### [利用上の快適性の向上]

○比較的広い高水敷を有する場合、空間が単調な印象とならないように、地形の起伏、植栽、園路の配置等の工夫によって、空間的な変化が感じられるようにする。

○堤防や高水敷上における空間の節目となる箇所や、園路の線形・分岐点等に合わせて高木を配置することにより、人々の自然な行動選択を促すとともに、緑陰を形成し河川空間の利用上の快適性を高める。

○高水敷には、人々の利用形態や水辺からの距離、地盤高を考慮して、水生植物、河原の野草、シバ等を適切に選択、植栽し、四季の彩りの変化と自然性を感じさせる河川空間とする。

#### [地域性・地域景観の演出]

- 護岸、水門・樋門等の上屋・扉体に、地域の特産物や行事等の絵画を描きこんだり、幾何学模様やカラフルな塗装を施すことは、護岸や水門・樋門の本来の機能を感じさせず、周辺景観から浮き上がり目立つものとなるため、極力行わない。
  
- 良好な河川景観が得られる場所や、河川・水路の水面越しに地域のシンボルとなる山並みへの眺望等が得られる場所は、河川区間の内外を問わず、良好な展望空間として整備する。
  
- 沿川に、歴史・自然資源が点在する場合や、住宅地、公共施設が隣接する場合等は、これらの資源や施設を連携する水辺のネットワークルートとして、堤防道路や高水敷空間を活用する。
  
- 堤防裏の敷地に余裕がある場合には、堤防並木や河畔林等を植栽し、地域の緑の軸となる河川を縁取る印象的な景観を創出する。  
→背後地に公園等の広い敷地を有する場合、サクラ堤等として積極的に整備する。





河道の屈曲に応じて、河川空間を広く取り、平面形・断面形に変化を与えて自然的印象を高めている

藤島町  
黒瀬川



歴史的な地区の特性に配慮した石積み護岸の整備。護岸天端に生垣が植えられ、背後の建物の足元が隠されることで、河川空間と都市空間との関係が良好なものとなっている。

鶴岡市  
内川



堤防の緩傾斜化を図ると同時に、植栽を行い、利用上快適な水辺を形成している。しかし、必要以上に庭園的な意匠はかえって不自然な印象を与える恐れもある。

藤島町  
京田川



既存護岸前の水辺では、自然復元を図り、緑豊かな水辺空間を形成しようとしている。沿川での緑化の工夫等、都市と河川との良好な関係の向上が望まれる。

上山市  
前川



低水部に階段護岸を整備し、親水性を向上させている。ただし、その幅や設置位置、間隔の設定には十分な検討が必要である。

酒田市  
新小牧川



低水護岸天端にアヤメを植栽して、水辺のプロムナードとしての快適性を高めている。ただし、観光スポット以外での適用には十分な注意が必要である。

酒田市  
新井田川





表面に凹凸のあるブロックを利用した護岸。表情の豊かさは、視点からの距離によって異なるので、意図した表情の効果が得られるかについての注意が必要である。

新庄市  
升形川



樹木の位置にあわせて園路線形を設定することで、歩行によって景観の変化が印象的に感じられる。

福島市  
阿武隈川渡利地区



水路としての本来の機能を満たしつつ、親水空間として整備している。月山を水面越しに眺められる遊歩道が設けられており、場所の特徴をも上手に引き出している。

寒河江市  
二ノ堰地区



水面越しに月山が望める橋梁空間。水面越しに良好な眺望が得られる場所では、展望空間としての整備が求められる。

寒河江市  
寒河江川



町中の用水路を歩道空間と一体的に整備することにより、都市のアメニティ要素としての魅力が付与されている。

鳥取県米子市



水面上に枝が差しかかるようなサクラ堤。背景となる山並みとも一体となった、良好な水辺の風景をつくりあげている。

遊佐町  
洗沢川

#### 4. 治山・砂防施設

治山・砂防施設の整備は、土石流や地すべり、雪崩等の自然災害の抑制・抑止を図るといった自然現象を対象とした設計行為である。

治山・砂防施設は、通常、山間や渓谷等の自然環境の中に設置されることが多いが、施設整備にあたっては、周辺環境、土地利用の状況等に応じて以下の2つの方向性が考えられる。

- ①周辺景観の主体が山並み・渓谷・樹林等の自然要素である場合、周囲の良好な自然景観を損なわないように、施設そのものを目立たない存在とすること。
- ②整備対象地区が集落周辺や森林公園周辺等、比較的人々の目に触れることが多い場合、施設自体の形態を洗練させることで、「周辺住民の安全な生活を守る」という施設が有する本来の役割を明示し、周辺住民・利用者に施設の意義、役割の理解を促すこと。いずれにおいても、周辺の環境・景観に影響を及ぼすことなく、周囲の景観の添景となることが極めて重要な事項である。

ここでは、上記の事項を踏まえ、治山・砂防施設の景観設計上の留意事項を示す。

なお、大規模な多目的ダムについては、スケールが極めて大きくなること、様々な周辺環境整備が伴うこと等から、本指針をベースとした上で、さらに別途検討が必要である。

##### [全体形状の検討]

○治山・砂防施設の設計は、通常は標準設計による経済性重視の形態となることが多いが、特に人々の目に触れることが多い場所では、周囲の生活環境に配慮するとともに、構造上の安定ばかりでなく、見る人に安心感を与えるような「見た目の安定」を考慮して全体形状の検討を行い、施設が有する機能をより明確に示す。

○目標とする治山・砂防ダムの姿を実現するために、水通し部、袖部等の各部位相互の関連性を考慮しながら、ダム全体としてのプロポーションを整える。また、様々な角度から眺められることを考慮して、周辺景観におけるダムのスケールと形状との関係性に配慮し、ダム全体としてのバランスを確認しながら設計を行う。

○治山・砂防ダムの設計において、副ダム、魚道、流路工等が併設される場合は、施設相互の関連性を考慮し、一体の砂防施設として全体形状の検討を行う。

##### [周辺景観との調和]

○周辺景観の主体が山並み・渓谷・樹林等の自然要素である場合、コンクリート製の治山・砂防ダムやモルタル吹き付けによる法面保護工等は、輝度が高いコンクリート壁面が大きな面として現れ目立ちやすいことから、表面に自然石を用いる等、周辺の自然的な景観から浮き上がらないようにする。

→表面への自然石等の自然素材の利用や、部分的な木材の使用等により、周辺景観と馴染ませる。

→壁面肩部に下垂性の植物を植栽する等、周辺の緑化を積極的に行う。

→コンクリート表面にハツリ等の表面処理を施し、コンクリートの輝度を低減させる。

○落石防止工等の施設が山腹斜面に設置される場合、人工的な施設が周辺景観の中で目立つ存在となることから、植栽を施す等することにより、周辺景観と馴染ませる。

○落石防止柵やケーブルネット等の色彩は、低彩度のものを採用し目立ちにくくする。  
→原則として、こげ茶系、黒等の落ち着いた色彩を選択する。

#### [繁雑さの緩和]

○擁壁工（山腹工）に落石防止柵等が併用される場合、形態が異なる施設が付加的に設置されることが多く、繁雑な印象を与えることから、これらを一体の施設としてデザインを行う。

→擁壁の天端を部分的に高くし、落石防止柵の支柱として活用する。

→落石防止柵の支柱位置に合わせて擁壁にリブを設けることにより、施設相互に関連性を持たせる。

#### [長大な印象の軽減]

○重力式構造の治山・砂防ダムの場合は、下流面が一様な大きい面として現れ、単調感を与えやすいことから、壁面にスリットを設ける等、面を分割し単調感を軽減する。

→大きな面として現れるダム下流面において、水通し部を一段くぼませ、袖部との間に段差を設けることで、水通し部の意味を明示するとともに、一様な面の広がり分割し単調感を抑える。

→ダム下流面に、コンクリートの打継ぎ目に合わせて横方向の段差を設け、壁面に変化を与える。

→水抜き穴の位置に合わせて、下部に水みちとなるスリット（くぼみ）を設け、一様な壁面にアクセントを与える。

→ダム堤体に水抜きとなる溝（縦スリット）を設け面を分割し、単調感を抑える。

→バットレス式構造等、構造的に支壁が下流面に突出する構造を採用することで、支壁の反復によるリズム感を与える。

→壁面の処理の範囲で長大な印象を軽減できない場合は、ダム本体の構造形式の見直しを図る。

→スーパー暗渠ダムの採用を検討する。

○雪崩防護擁壁・誘導擁壁等の雪崩防護施設が長区間にわたり設置される場合には、一様な壁面が連続し単調な印象を与え、特に夏季には目立つ存在となることから、スリットの付与等により壁面を分割し変化を与える。

→スリットを規則的に配置し、抑揚や反復によるリズム感を与える。

→バットレス式構造等、構造的に支壁が下流面に突出する構造を採用することで、支壁の反復によるリズム感を与える。



### [デザイン基調の統一]

○治山・砂防ダムが群として設置される場合は、それぞれのダムを個別に検討を行うのではなく、一連の砂防施設としてデザイン検討を行い、それぞれの形態に脈絡が感じられるようにする。

→構造形式、下流面の分割方法（スリット等）を同一の形式とすることでデザインに脈絡を与える。

→素材、表面処理法を同一とすることでデザインに脈絡を与える。

### [地域性・地域景観の演出]

○大きな面として現れる治山・砂防ダム壁面等に絵画を描きこんだり、落石防止柵や雪崩防止柵等に地域の特産物や樹木の形態等をモチーフとしたデザインを施すことは、治山・砂防施設が有する本来の機能とは無関係であり不自然な印象のものとなりやすく、また周辺の景観から浮き上がり目立つ存在となりやすいためできる限り用いないようにする。

○工事用の仮設道路の設計にあたっては、可能な限り周辺の樹木等に影響を及ぼさないような線形とし、周辺環境・地域景観を保全する。また、工事後は散策路として再活用を図りつつ、適切な場所に展望空間を整備し、治山・砂防ダム等の施設を周辺景観の添景として印象的に眺められる場としても活用する。





落石防止柵の支柱の位置に合わせて擁壁にリブが設けられ、施設相互の脈絡が感じられる。しかし、コンクリートのリブスリットは陰影を生み出しているが、周辺景観の中にあっては明度が高すぎる印象を受ける。 島根県津和野町



周辺景観において適当なスケールの砂防ダム。自然石積みであるため施設自体が目立たず、周辺景観の添景ともなっている。

福島県福島市  
川上第一ダム



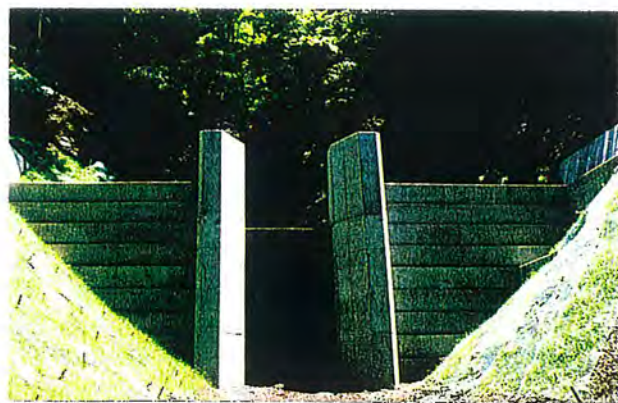
張出した支壁でダム本体を支える形態を取ることにより、構造物に見た目の安定感を与えるとともに、壁面に変化を与えている。

群馬県



本ダム、副ダム、流路工などが自然石で統一され、一体の砂防施設として認識できる。また、自然石を用いることで、周辺の自然景観との調和がとれている。

福島県福島市  
地蔵原堰堤



ダム下流面を階段状にすることで壁面を適度に分割し、単調さを緩和している。支壁がやや大きい印象を受けるのは、全体のコンクリート量を減らすパットレス構造を用いているためである。

群馬県



アーチ型の水抜き穴が千鳥に配置される等、配置、形態が工夫されており、単なる穴としての印象が抑えられている。

福島県福島市  
川上第一ダム

## 5. 海岸・港湾・漁港

海岸・港湾の特徴は、雄大で開放的な景観を有すること、他では得られない海上からの眺めが存在することにある。そして、陸と海の結節点であることから、古くから様々な産業が栄えた場所であり、人々が暮らす背後地との関わりも深い場所である。

また、海岸・港湾の整備は、波浪、海流等の自然現象を対象とした設計行為であるということも特徴的な事項である。

ここでは、背後地との関わりも含めた海岸・港湾が有する空間のあり方、および設置される海岸・港湾特有の各種施設のあり方について、景観設計上の留意事項を示す。

なお、海岸・港湾に付帯的に設置される公園・緑地、駐車場等については、個別の検討が必要となることから、ここでは海浜公園、港湾緑地等、海岸・港湾に特徴的な事項についての記述に留め、各施設共通の事項については後述の「6. 公園・緑地」ならびに「9. 共通編」の駐車場の項において記述する。

### [周辺景観との調和]

○突堤や防波堤は、直線的な形態やコンクリートの素材感が、自然的な印象の海岸景観の中で人工的で画一的な印象を与え、浮き上がった存在となりやすいことから、機能のみを考えた整備を行うのではなく、海岸景観を構成する一要素であることも十分念頭に置いて設計を行う。

→突堤や防波堤の幅をや高さ等を操作し、岬や岩礁等の海岸地形と脈絡をもたせた形態とすることで自然的な景観の一要素としての意味を与える。

→入港船舶への影響のない場所においては、突堤や防波堤の平面形状に曲線や折り曲げ等を取り入れる等により、単調で画一的な印象を緩和する。

### [繁雑さの緩和]

○海岸景観は、見通しが良く開放的で雄大な景観が特徴的であることから、離岸堤や消波ブロック等の景観阻害要因となる人工物は、可能な限り海上に現れないようにする。

→離岸堤を設置する場合、潜堤方式等の海上に現れない方式の採用を検討する。

→特に人々が集まりやすく目立つ箇所等においては、根固め工としての異型ブロックの設置は極力行わない。

### [利用上の快適性の向上]

○海浜公園や港湾緑地の整備においては、様々な視点からの眺めを楽しむことができるように、地形や施設の線形等に変化を与え、多様な景観が得られるようにする。

→護岸に平面的な出入りを与えて、視点場空間としての独立性を高める。

→敷地の地盤高を一律な高さに設定せず、丘状の地形や、盤高を複数段に分ける等、レベル的な変化を与えて、眺望体験をより印象深くする。

→高木の植栽によって、空間の独立性を高めると同時に、緑陰をつくり出して利用上の快適性を高める。

→園路や階段状の視点場を設置する場合は、海岸線に沿った一様な線形とせず、視点位置によって多様な景観変化が得られるよう、部分的に引き込む等、平面的な変化を与える。



- パラペットが立ち上がる場合は、陸側の歩行者に配慮し、利用上の快適性が感じられる多機能な施設デザインを行う。
  - 転落防止柵としての機能を考慮して、人々が直接触れやすい天端に木材や自然石等の素材を用いる。
  - 陸側に広場的なスペースを有する場所においては、パラペットにベンチを組み込む等、利用を考慮した一体的なデザインを行う。
  - 陸側の壁面については、歩行者からの見えを考慮し、一様な平滑面とせず、形態や肌ざわりの良いものとする。
  
- 港湾内の道路は、海辺という景観的に良好な立地条件を有することから、植栽や道路付属物を含め、周辺への眺めやシーケンス（視点の移動に伴い移り変わる景観）を考慮した検討を行う。

#### [広大な印象の軽減]

- 工業港湾は、広大で平坦な敷地を有するため、単調で殺伐とした印象を与えやすいことから、港湾に求められる機能に十分に配慮しつつ、地形の表情に変化を与える。
  - 港湾緑地等のオープンスペースに適度な起伏を与え、空間に変化をもたせる。
  - 施設周辺部においてマウンドを行う等、空間に変化を与えるとともに、施設の足元をやわらかな印象とする。
  - 地形の起伏に合わせて地被植栽を行うことにより、殺伐とした港湾空間に、四季の変化による豊かな表情を与える。

#### [地域性・地域景観の演出]

- 護岸、舗装等の各種施設に、地域の特産物や行事等の絵画を描きこんだり、幾何学模様やカラフルな塗装を施すことは、各種施設の本来の機能を感じさせず、周辺景観から浮き上がり目立つものとなるため、極力行わない。
  
- ボラード（岸壁に船舶を係留するためのポール）や照明柱等に華美な装飾や地域性を表現することは、本来の機能とは無関係であるため、シンプルな形態のデザインとする。
  
- 階段護岸や緩傾斜護岸等、水面を間近に感じることができるといった施設デザインを行い、より印象的な景観体験を可能とする。
  - 陸域に設置する護岸等は、必要に応じて覆砂、覆土および緑化を行う。
  - 緩傾斜護岸の勾配は、人々の歩行に支障を来たさないよう配慮する。
  - 緩傾斜護岸は、水際部付近において平場を設け、利用上の安全性を確保するとともに、より水辺に近い場所での活動を可能とする。
  - 階段護岸の蹴上げ高は、人々が腰を下ろして海岸景観をゆっくりと眺めることができる高さとする。
  - 人々の利用を促す場所では、ボードウォーク等の海辺を意識させる素材を用い、海岸の有する場所性を演出する。



○フェリーターミナル周辺は、適切な照明の選択・配置によって、落ち着いた印象の照明デザインを行い、情緒ある海岸景観を演出する。

→暖色系の照明器具を用いることで、温かみのある夜間景観を演出する。

→照明器具をベンチ、フェンス等のファニチャーの中に取り込む等、一体的にデザインをする。

→ポール照明を水際に配置し、より効果的な倒景（水面に映り込む景色）を演出する。

○漁船の停泊地やプレジャーボートスポット等においては、船が並ぶ特徴的な港湾景観を有することから、景観要素としての船の存在を考慮し、これらを良好に眺めることができる場を設置することで、港ならではの魅力を引き出す。

→船が規則的に係留できるようなピアの配置とし、整然とした印象とする。



フェリーターミナル隣接地区において、人々の利用や町側からの景観を考慮して整備された防波堤。

北海道稚内市



防波堤上部にプロムナードを併設し、海岸を眺められる展望空間として活用している。しかし、化粧型枠の利用は、隣接する防波堤の表情とは相容れないものとなっている。

北海道稚内市



人々が腰をおろして海岸景観を眺めることを考慮して設置された階段護岸。適度な段差や勾配を設けることで、快適な利用が可能となっている。

鶴岡市  
湯野浜地区



転落防止を兼ねたボラードを設置し、港としての地域性を演出している。さらに照明を組むことにより、夜間の視認性と印象的な夜間景観の創出を図っている。

福岡県福岡市



地域の歴史性に配慮し、パラペット部を石積みとしている。付近に擁壁と一体となったベンチを設けることにより、落ち着いて水辺空間を味わうことができるようになっている。

北海道小樽市  
小樽運河



歩行空間をシンプルな構成とすることで、主役である水面を引き立てるようにしている。また、係留施設を用いた転落防止柵とボラードは港である場所の個性を印象づける役割を担っている。

福岡県福岡市

## 6. 公園・緑地（都市公園、農村公園、森林公園等）

景観からみた公園・緑地の特徴は以下の3点にある。

- ①広く人々に開かれ、地域に密着したコミュニティの場となること
- ②人々に潤いやゆとり、やすらぎを与える場となること
- ③立地条件や目的等により利用、活動形態が多様であること

①に関しては、農村公園や街区公園のように実際の利用者が明確な場合、これら利用主体となる地域住民の計画立案への参加等によって、使い勝手に優れた公園・緑地としていくことが大切であり、この参画意識がその後の良好な維持管理にも結びつくこととなる。

②に関しては、子供や高齢者などの、幅広い利用者の立場を考慮した上で、居心地の良い空間形成を図ることが基本である。また③については、農村や市街地等、公園・緑地が設置される場所の特性と整備目的とを十分に考慮し、全体として良好な景観を形成するように配慮することが肝要である。また、いずれの場合も公園・緑地という施設を設計するという観点よりも、空間全体を設計するという観点に立ったアプローチが重要となる。

ここでは、このような公園・緑地の特性を踏まえたうえで、設計段階における留意事項を示す。なお、各公共施設共通の一般事項である舗装、駐車場については、後述する「9. 共通施設」の各項に示すこととする。

### [境界部における連続性・一体性の確保]

○敷地の境界部にはできる限り柵や垣根等は設けず、地域住民や利用者が気軽に立ち寄ることができるように開放的な空間構成とする。

→塀、柵、垣根等、敷地の内外を分断する施設は、可能な限り設けない。

→安全管理上敷地境界を開放できない場合は、塀や柵等の視覚的な断絶感を生じやすい施設は設置せず、敷地境界に接する帯状の空間を緩衝地帯として考え、マウンド、植栽の活用等の工夫を行う。

→柵や塀等を設置しなければならない場合は、通常設置される敷地境界上ではなく、セットバックさせる等の工夫を行う。

→柵や塀等を設置する場合は、低明度、低彩度の落ち着いた色を基本とした透過性の高いもの、高さの低いもの等を用いる。

○敷地の境界部において、敷地内部と外部との連続性やゆとりある空間の創出に配慮し、敷地の内部と外部とが一体的に感じられるようなデザインとする。

→敷地境界部における敷地の内外に連続性を持たせるために、路面の段差解消や舗装の統一等を行う。また、パーゴラ等を設置し、両空間の一体感を高める。

→敷地周縁部の植栽と隣接する道路植栽との樹種を揃えたり、植栽位置の工夫等により、公共空間としての一体的な空間づくりを行う。



### [土地の記憶の継承]

- 対象敷地周辺に、微高地や窪地等の地形が点在する場合は、対象敷地内においても、微高地や窪地を新たに形成する等、周辺地形との脈絡を感じさせるアースデザイン（土工による地表面の造形）の工夫を行う。
- 園路の設置にあたっては、微高地や窪地の斜面を活用しながら変化に富んだ景観体験が可能となるような線形とする。
  
- 対象敷地内での歴史的な古木や鎮守の森、一里塚等の歴史資源の保存においては、これらを柵で囲うような資源のみを保存することは行わず、資源が置かれている場の雰囲気や伝えられるように、その周辺の空間も含めて保存する。

### [周辺景観との調和]

- 樹林が隣接する等、周辺に緑が多い地域の場合、それらを景観資源として有効に活用し、周辺の植生の特徴を踏まえた樹種選定や植栽位置の工夫を行う。
- 隣接する樹林等を公園内からの景観資源として活用し、対象敷地内には必要以上の植栽は行わない。
- 敷地周縁部等には、周辺景観とのバランスに配慮した植栽を行い、印象的な景観を創出する。
- 周辺の樹木群から浮き立つような樹種の選択は行わない。
  
- 都市部や住宅地等の緑が少ない地域の場合、花の咲く樹種や実のなる樹種等、四季の移り変わりが感じられる樹種を取り入れる。

### [人にやさしいデザイン]

- 歩行空間に階段等の段差を設置する場合は、車いすや乳母車での利用が可能となるように、緩勾配のスロープを設ける等十分に配慮する。
- スロープを設ける場合は、地形の流れを取り込んだり、隣接する階段と空間的な一体感が感じられるようにする等、周囲の地形や施設と馴染むような線形とする。

### [利用上の快適性の向上]

- 外部の道路網体系や歩行動線に合わせて出入口部や園路を設置し、周辺地域との動線の連続性を確保する。
  
- 近隣の住民ばかりでなく、外来者等の利用に対しても配慮し、入口部等の敷地内の要所には、施設配置等を示す案内サインを適宜設置する。

### [地域性・地域景観の演出]

- 入口部等に案内サインやモニュメント等を設置する場合は、地域の特産物や行事等をモチーフとしたデザインは、周辺の景観から浮き上がり目立つ存在となりやすいため、できる限り用いない。
  
- 敷地内の建築物や舗装等に地場の素材を用いたり、屋敷林等の地域に特徴的な植栽方法を取り入れること等により、地域性を演出する。

- 敷地内において、地域のシンボルとなる河川や山並み、田園風景等の良好な眺望が得られる場所においては、休憩機能を備えた展望空間を設置する。
- 展望空間は、良好な地域景観とともに公園を一望できるように、周囲の地盤高よりも高い位置に設置する。
- 敷地内に管理棟、トイレ等の建築物を設ける場合は、眺望を阻害しないような配置や高さとする。
- 高木植栽にあたっては、成長後も眺望を阻害することのないように、展望空間の前面には植栽を行わない。
- 地形のレベル差、植栽、周辺樹林を活用し、遠景の山並み等が借景として活かされるようにする。





マウンドと植栽により敷地境界を示し、敷地内と道路の樹種をそろえることにより、公園敷地と周辺に空間的連続性を持たせている。敷地外においても公園の雰囲気を楽しむことができる。

東京都荒川区  
尾久の原公園



マウンドや植栽によって入口部を明示し、歩道と内部との舗装の統一により歩行者を引込む効果をあげている。

東京都荒川区  
尾久の原公園



公園周辺の施設立地と歩行者動線を考慮して出入口を設け、敷地内の通り抜け等を可能にしている。歩行者は、周縁の道路ではなく、快適な公園を通行することができる。

宮城県仙台市  
勾当台公園



市街地において四季の変化を楽しめるようツツジ等が植栽され、緑豊かで、地域を代表する特徴的な公園となっている。市民だけでなく、周辺から多くの人々が訪れている。

長井市  
白つつじ公園



敷地内に緩やかな起伏を設けることにより、変化のある空間が形成されている。周辺部にのみ高木植栽を施し、開放的な空間となっている。

東京都荒川区  
尾久の原公園



高台に展望公園を整備したことにより、散居集落が点在する地域の特徴的な田園景観を、印象的に眺めることができる。

飯豊町



## 7. 大規模な面的整備

農地整備や宅地開発等の大規模な面的整備の特徴は、以下の2点にある。

①大地の大規模な改変により、従前とはまったく異なる新たな景観をつくり出す可能性がある行為であること

②用地造成、道路整備、河川・水路整備等を包括した総合的な行為であること

特に、農地整備の場合、以前の農地景観を特徴づけていた地形地物等を活かすこと、大区画化によってあまりに均質で単調な景観とならないようにすること等により、地域全体の農地景観としての統一性や連続性を留めるようにすることが重要である。

また、宅地開発等においては、母都市の特徴を継承していく方向とそれにとらわれずに新たな景観を創造していく方向があるが、いずれの場合においても、周辺景観や地形の流れをくみ取り、しっかりとした目標像を設定し、この実現に向けて造成や道路、河川等の施設設計において、景観的配慮を行うことが重要である。

ここでは、このような大規模面的整備ならではの特徴を踏まえ景観設計上の留意事項を示す。

### [土地の記憶の継承]

○微高地や沢・河川、後背湿地（谷地）、鎮守の森、棚田や段々畑等の特徴的な地形、地物は、その土地の記憶を留める要素として積極的に活用する。

→これらの要素は、保全し、公園や展望空間等として取り込む。

→区画割等の都合により、そのままの形で保全することが困難な場合には、開発地域内の別の場所で、そのイメージを感じさせるように植栽やアースデザイン（土工による地表面の造形）上の配慮を行う。

→棚田や段々畑については、地域の景観資源として位置づけ、その景観の特徴が残るような農地整備を行う。

○用地の造成や区画割、道路設計、河川・水路の設計にあたっては、地形の流れや特徴的なまちの構造を活かす。

→母都市や既存集落の町割や街路、水路のパターン等、地域や地区の成り立ちや履歴を留める要素を現地調査等により見つけ出し、その面影が感じ取れるような設計を行う。

### [大区画化、均質な区画割に伴う景観の単調化の抑制]

○圃場等の大区画化が、景観的な単調化をもたらさないように、耕区の形状・規模の設定、配置等を行う。

→耕区的设计にあたっては、必ずしも同一面積の矩形とすることにとらわれず、全体的な地形の流れや周辺景観の状況を見極めて、単調な景観とならないようにする。

→開水路の開合部における水路の拡幅、開水路際や農道交差点への高木植栽などによって、景観的節目（景観上のアクセント）をつくり出す。

○宅地等の面開発にあたっては、画一的な空間とならないように、住宅地や商業地域、研究施設地域等、想定する土地利用に応じた人々の活動形態を考慮した空間の形成を意識して設計を行う。

→土地利用や立地施設等によって特徴づけられる地域の性格づけや道路の格づけを行う。

→地域の性格にふさわしい公園や、道路の格に応じた道路の横断構成、舗装、植栽の設計を行う。

#### [地域性・地域景観の演出]

○開発地を特徴づけ、明示するためのモニュメント等を設置する場合、地域の特産物や行事等をモチーフとしたデザインは、周辺の景観から浮き上がり目立つ存在となりやすいため、できる限り用いない。

○農地や宅地等の開発地域からランドマークとなり得る山並や水面等が望める場合には、それらがより印象的に見えるよう、耕区や街区、道路や街路等の方向の設定や視点場となるようなポケットパーク的な空間の設置を行う。

○宅地や工業団地等の入口部においては、来訪者をもてなし、開発地域のアイデンティティを明示するために、開発地の玄関口等を印象づける。

→道路隅切り部等の小スペースを活用して植栽や案内板の設置等を行い、開発地の玄関口を印象づける。

→広域を連絡する道路が開発地域内を通過する場合は、同一路線としての景観デザインの基調を整えつつ、植栽形式や樹種の変更等によって、開発地域であることを明示する。

#### [周辺景観との調和]

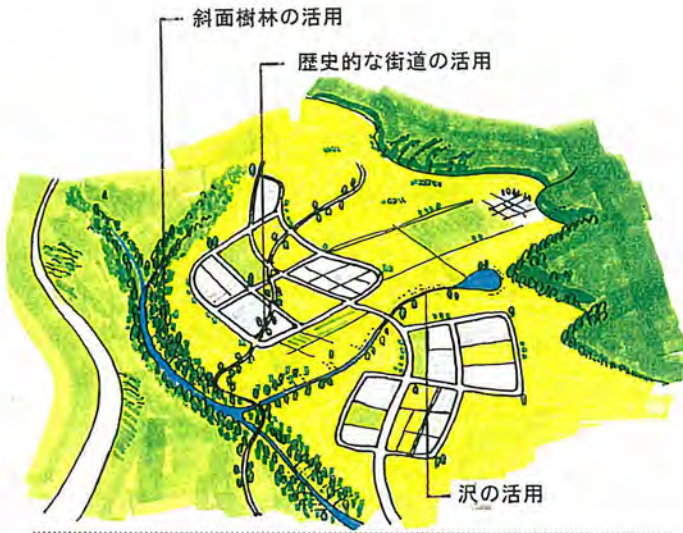
○新たに住環境の整備、集落土地基盤の整備等を行う場合には、隣接する既存集落との景観的関連性が損なわれないように、既存集落や農地にみられる景観要素を積極的に集落・宅地内に取り込む。

→地域の気候風土の特徴を表す屋敷林は、住宅地の緑や公園、ポケットパーク等の緑として積極的に取り込む。

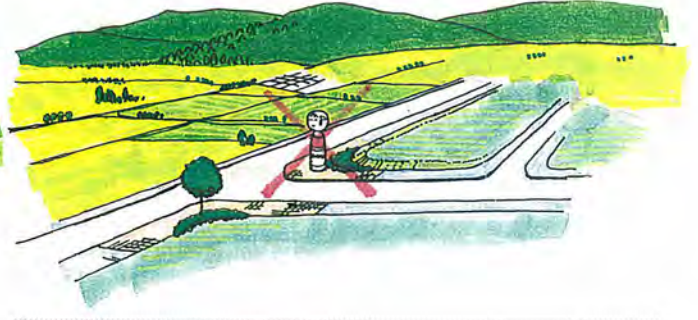
○林地等における農地や宅地等の面開発にあたっては、周辺から開発地が浮き上がって見えないように、法面、オープンスペース等への植栽を行い、積極的に緑化を図る。

○調整池の設計にあたっては、日常的な景観として周辺との違和感が生じないように護岸等の覆土・緑化、植栽等を行う。

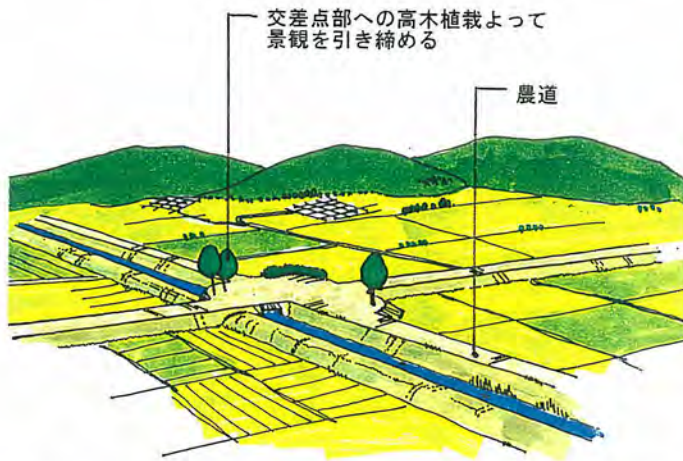
## 7. 大規模な面的整備



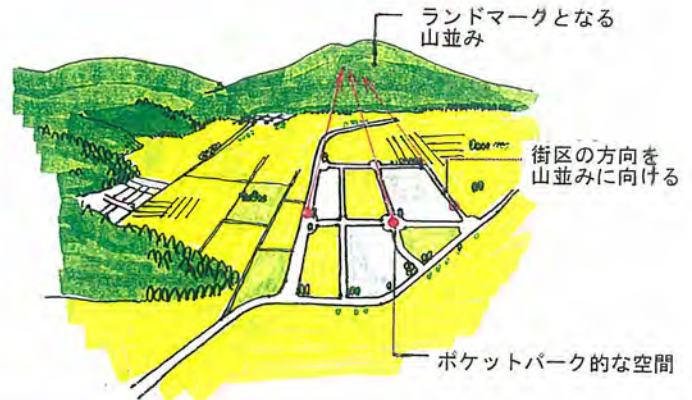
その土地の記憶を留める特徴的な地形、地物を積極的に活用する。



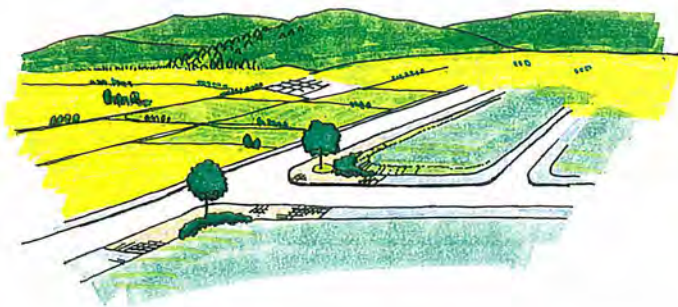
開発地のアイデンティティを示すモニュメントには安易に地域の特産物等のデザインを用いない。



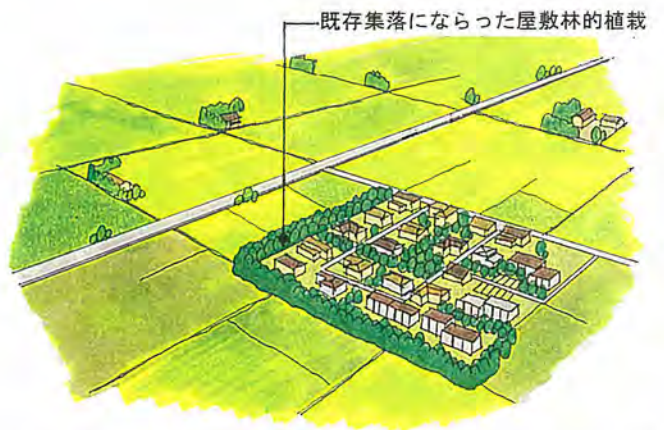
圃場等の大区画化においては、景観的節目をつくりだし、単調な印象を緩和する。



ランドマークとなる山並み等が印象的に眺められるようポケットパークの設置や街区等の方向を設定する。



宅地や工業団地の入り口部には、植栽や案内板を設置し開発地の玄関口を印象づける。



隣接する既存集落との景観的関連性が損なわれないように、屋敷林等の景観要素を積極的に取り込む。